

令和2年度（2020年度）行政評価シート【個表】

令和 2 年 8 月 17 日

評価対象事業		評価者	道路課担当課長	吉本 敏明
都整-14	実施事業	交通安全施設整備事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務	主管課 道路課 関連課
総合計画上の位置付け	分野	道路整備	施策の方針	道路・橋りょうの整備・維持管理

1 事業の目的

対象	市民等
意図	安全な交通を確保し、事故防止を図るため。
効果	交通の円滑化、安全性の向上を図る。

2 令和元年度(2019年度)に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全施設を改修し、安全で円滑な交通を確保するとともに、通学路の安全対策を実施した。</li> <li>市道038-000号線の交通安全対策施設工事(歩道段差等改善)を行った。</li> <li>市道053-000号線の交通安全対策施設工事(歩道修繕)を行った。</li> <li>市道027-000号線の交通安全施設整備工事(歩道整備)は年度内に完了できないため、翌年度へ繰越を行った。</li> <li>前年度から繰越明許により、市道055-000号線の交通安全対策施設工事(歩道改修)及び市道027-000号線の交通安全施設整備工事(歩道整備)を行った。</li> </ul>
---

3 事業費等基礎データ

データ区分	30年度(2018年度)決算	01年度(2019年度)決算	データ区分	02年度(2020年度)当初予算	備考
人口等のデータ	人口	176,308人	人口	176,608人	各年3月31日(住民基本台帳)
	世帯数	81,763世帯	世帯数	83,058世帯	
	事業の対象者数		事業の対象者数		
運営資源状況	決算値(千円)	24,485	27,805	当初予算(千円)	50,947
	国県支出金	3,977	2,546	国県支出金	14,100
	地方債			地方債	
	その他			その他	
	一般財源	20,508	25,259	一般財源	36,847
	人員配置数	1.7	2	人員配置数	1.8
			会計年度任用職員配置数	0.0	
事業経費運営	人件費(千円)	14,195	16,634	人件費(千円)	14,984
	総事業費(千円)	38,680	44,439	総事業費(千円)	65,931
	市民1人当りの経費(円)	219	252	市民1人当りの経費(円)	373
			対象者1人当りの経費(円)		

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効率性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	2. 増大している
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きいのか	3. 廃止・休止による影響は大きくある
有効性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きいのか	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入 △-3. 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
		△-2. 市民等と協働して事業を実施することはできない
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施
		協働実施済の場合のパートナー
事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す ⇒ <input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする <input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する <input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒	見直しの種類 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他
		見直しの内容 事業へ統合
予算規模の方向性	<input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする <input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由 歩行者等の安全な通行の確保には、歩道段差等の解消やガードレールの設置・修繕が引続き必要となるが、限られた予算や職員でできる事務量には限界があるため引続き現状維持とする。
	総評(評価に対する考え方、根拠等)	・歩行空間の確保、歩道の段差解消及び歩道の修繕等に係る市民ニーズは増大傾向にあることから、積極的に進めていく必要があるが、限られた予算や職員でできる事務量には限界があるため、現状維持とする。

令和元年度(2019年度)事業実施にあつた課題(前年度未解決の事項を含む)	現在、歩道について計画的な修繕を要望されているが、橋りょうやトンネルなど緊急度の高い事業を優先的に修繕する必要があり、限られた財政状況のなか、実施が困難となっている。							
課題解決のために行った令和元年度(2019年度)の取組	歩行者の安全対策については、歩道の改修や歩行空間を確保するなどの安全対策を優先的に実施した。							<input type="checkbox"/> 解決 <input type="checkbox"/> 一部解決 <input checked="" type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	歩道の計画的な修繕については対応に至っていない。また、小中学校のみならず、保育園や幼稚園から要望を受け、歩行者の安全対策を広く求められるようになっており、対策の検討や関係機関との調整等の事務量が增大している。							

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項									
団体名									
他市実績									

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方								
----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容		単位		指標の傾向		備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方								
-----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--